

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104018		
法人名	株式会社セービング		
事業所名	グループホームあやらぎ		
所在地	山口県下関市綾羅木新町1丁目16-13		
自己評価作成日	平成29年12月25日	評価結果市町受理日	平成30年6月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成30年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族と同じ状況で、自分らしさを持って笑顔で楽しく安心感を持って生活して頂けるよう、支援している。また、食事は季節感を感じられるよう努め、1日三食毎日手作りしている。また、利用者を支える
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の畑で採れた野菜など、旬の食材を利用して、利用者の好みを聞いて献立を立てられ、三食とも事業所で食事づくりをされています。利用者と職員は同じテーブルを囲んで同じ物を食べながら楽しく食事をしておられ、誕生日食、季節の行事食、家族会での花見弁当、月1回の外食など、食事が楽しみなものになるように支援しておられます。利用者が普段行けないような場所でも、利用者の希望を把握されて、四季折々の花見に出かけたり、地域のふるさとまつり、海峡館のイルカショーなど、家族の協力を得られて戸外に出かけられる支援をしておられます。年5回、家族会を開催され、花見や年末の大掃除には遠方の家族も参加されるなど、家族と一緒に利用者本人を支えていく関係づくりを築いていられます。代表者や管理者は、全体ミーティングや日常業務の中で職員の提案や意見を聞く機会を設けておられ、誤薬防止のための工夫をされたり、家族状況に応じた勤務体制の変更など、職員の意見や提案を反映させるように取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、申し送り時に理念とグループホーム職員の心得を唱和し、理念の意味を認識して介護にあたっている。事業所の理念を作り、理念に沿うよう日々の介護を行っています。	事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。毎日の朝礼や月1回の職員ミーティング時に唱和し、カンファレンス時に話し合っ て確認し、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りに参加したり、地域住民の施設の避難訓練への参加される形を取っている。その際、茶話会などを開き、施設の理解を深めていただくよう心がけている。また、積極的に地域企業のボランティアの受け入れを行っている。	地域のふるさとまつりに利用者と職員が一緒に出かけて、地域の人と交流している。中学生の職場体験や大学生の実習を受け入れている。ボランティア(バイオリン、フルート演奏、読み聞かせ、フラダンス、平家太鼓)の来訪がある。地域の人からウェス用の古布などの差し入れがある。買い物時や散歩時などで地域の人と挨拶を交しているなど、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の見学希望者を随時受け入れている。また、学生や資格取得の為の訓練校などの実習生の受け入れも積極的に行っている。また、地域中学校の職場体験を受け入れている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員個々で分担して行い、全体を皆で検討するようにしている。それによって自分達のケアの見直しに活かしている。また、外部評価でのアドバイスを活かし、ケアの向上に役立てている。	管理者は、職員ミーティング時に評価の意義について説明し、全職員に自己評価をするための書類を配布し、項目を分担して職員が記入後に、個別に聞き取りをして管理者がまとめている。外部研修の参加の機会を増やしている他、内部研修の年間計画を作成して、職員のスキルアップにつなげているなど、改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告やヒヤリハットも報告したり、相互が質問を交わし合うなど、情報交換したりアドバイスをもらいながらサービスの質の向上に役立てている。また、地域の社会資源の活用にあたって相互に情報提供している。	新たに、地区のまちづくり協議会福祉部会長をメンバーに加え、会議を年6回開催している。行事報告、研修報告、ヒヤリハット、事故報告などを報告し、話し合いをしている。婦人会連合会長から、避難訓練時の地区住民の参加について提案があり、次回実施する夜間想定避難訓練時に、地域の人の参加要請をするなど、そこでの意見や提案をサービス向上に活かしている。	・議事録の工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	キャラバンメイトの資格を持つ職員を増やす取り組みに努め、認知症サポーター養成講座など、市との連携をはかっている。また、サービスの取り組み方などで不明な点があれば随時相談している。	市担当者とは、運営推進会議時の他、直接出向いたり、電話やFAXで相談して助言を得たり、情報交換をしているなど、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や電話やFAXで情報交換している他、自治会館で開催している地区のオレンジカフェに利用者と参加して情報交換したり、地域ケア会議の徘徊訓練では民生委員や自治会長と共に協力しているなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1度の職員ミーティングの中で身体拘束に関する研修を定期的に取り入れ、身体拘束について正しく理解できるように努めている。また、職員が協力し合い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内部研修(身体拘束と高齢者虐待)で学び、職員は理解をして抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。道路状況や立地条件等から、玄関の施錠をしているが、外出したい利用者には、職員が一緒に出かけたり、気分転換の工夫をしている。スピーチロックについては、管理者やリーダーが指導する他、職員間でも話し合っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に1度の職員ミーティングの中で、定期的には高齢者虐待に関する研修を取り入れている。また、施設内で虐待がないように職員間でも注意を払っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月に1度の職員ミーティングの中で、権利擁護に関する研修を取り入れている。現在は実例も複数あり、活用しており、その都度理解を深めていくようにも心がけている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	安心して利用して頂けるよう契約の際には、こまめに疑問がないか問いかけるようにしている。また、重要説明事項説明書と契約書の控えをわたし、疑問点などあれば、その都度対応している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要説明事項に苦情についての窓口や解決に向けての流れなどを記載している。また、苦情受付第三者委員を設置している。玄関に意見箱を設置し意見の出しやすい環境作りに努めている。	相談や苦情受付体制、第三者委員、処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。面会時や年5回の家族会(花見と食事会、大掃除と食事会など)、運営推進会議時、事業所だより送付時、電話等で家族の意見や要望を聞く機会を設けている。個別のケアに関する要望には、その都度対応している。運営に反映させるまでの意見や要望は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や施設長が毎月4回、入居者や職員と一緒に食事をする機会を設け、その際に職員からの意見や要望、提案を聴き、反映できるように努めている。また、施設長や管理者、ユニットリーダーで会議を行うことで意見を反映できるように努めている。	代表者も出席する月1回の全体ミーティング時の他、申し送り時や日常業務の中で、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。誤薬防止のために朝、昼、夕の薬袋の色分けをして誤薬をなくす提案や職員の家族状況などを配慮しての勤務体制の変更など、職員の意見や提案を反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表を作成する際に前もって希望の休みを聞き、生活スタイルに対応して働きやすい環境になるように努めている。また、代表者の現場訪問による現状把握と施設長や管理者との情報交換などから職場環境の整備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度のミーティングの時に様々な研修を取り入れたり、外部研修の案内を回覧し、情報提供している。有給休暇を確保し、働きながら積極的にトレーニングを行えるように努めている。	外部研修は、情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。研修資料は閲覧できるようにしている。今年度は実践者研修などを4回受講している。法人研修は、介護マナー、介護技術、メンタルヘルス、守秘義務など、7回実施している。内部研修は、年間計画を作成し、月1回職員が講師を務め、接遇マナー、理念の共有と実践、看取り、認知症などを実施している。欠席者には資料を配布し、共有を図っている。新任研修は管理者やユニットリーダーがマニュアルに基づいて1日研修を実施し、7日間は管理者や先輩職員の指導を得て、働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟し、ブロックの研修会や懇親会に出席するなど、同業者とのネットワーク作りや交流をはかるように努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の情報収集のため職員同士で話し合って情報を共有している。また、本人自身からも聞きとりの機会をつくったり、表情から気持ちや感情を汲み取り、本人の安心を確保するよう努力している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所される前後で家族としっかり話をし、不安な点や困っている点を聴きながら家族との信頼関係の構築に努めている。また、面会時を利用し普段から相互に情報を交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式などにより、本人の希望や問題点を見極め、家族や本人とのコミュニケーションの中から優先順位を判断し、確認したうえでニーズをつかみ職員全員で検討しながらサービスに反映できるように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の趣向を理解し、家事にも積極的に参加してもらい入居者それぞれにあった支援を計画するとともに、一緒に取り組むよう努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡などの際、ホームでの様子をお知らせし、家族と話す機会を作る。家族が協力できる事があれば、協力して頂きながら支援するように努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、地名や名前等を会話に入れたり、友人に面会に来て頂いたり、ニーズに応じて外出介助をするなど、また、家族にも協力をお願いしながら支援していくように努めている。	家族の面会や親戚の人、近所の人、趣味の仲間の来訪がある他、電話や年賀状、手紙での交流の支援をしている。家族の協力を得ての外出、外泊、一時帰宅、墓参り、法事や結婚式への出席など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性やプライバシーを尊重しながら事前の情報やセンター方式、日々感じた事から、個々の性格や個性を活かすと共に、相性などを把握して職員も会話の中に入りながら孤立する事のないように努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、本人の所へ足を運ぶなどしている。また、家族と連絡を取り合いながら今後の相談など、支援するように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話を聞きながら、自己決定を尊重している。今までの生活歴や一人ひとりのアセスメントをしっかりと把握したうえで、希望や意向を聴き、真心を持って対応に努めている。	入居時のアセスメントシート(生活歴や馴染みの暮らし方、趣味など)を活用している他、日々の関わりの中での利用者の会話などを「24時間生活変化シート」の「気持ちのこと」の欄に記録し、月ごとに「施設介護経過」にまとめ、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族から情報を得て、職員間で話し合い本人本位に検討している。	・記録の工夫
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用前の家族との話の内容や、センター方式、情報提供資料などを回覧し、内容を常に把握できるように努めている。また、情報を事務所の観覧しやすい場所置き、いつでも見直せるようにしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々職員同士でしっかり申し送りを行い、ケアが途切れないように努めている。また、月に1度のユニット個別ミーティングの中で一人ひとりについて話し合い、心身の変化や現状把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にサービス担当者会議を行い、家族の意向や本人の意向を反映させながら介護計画を作成している。また、面会時や電話連絡などで、本人の様子を伝えるようにし、必要に応じてケアに取り入れるように努めている。	計画作成担当者と利用者を担当している職員が中心となって、月1回のカンファレンスを開催し、利用者の思いや家族の意向、主治医や看護師等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。6ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月から1ヶ年毎に計画を見直している他m、利用者の状態の変化や要望に応じてその都度見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に細かく記録し、特別変化があった場合は連絡ノートに記入するようにし、情報を共有するようにしている。また、必要に応じて職員同士や家族と話し合い介護計画の見直しに細部に渡り活かせるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、ニーズに応じて外泊や外出介助を行ったり、地域の美容院に散髪に来て頂いたり、定期的な日程以外のドクターの往診の依頼などを行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容室に訪問してもらい、散髪してもらったりしている。また、定期的に地域ボランティアを受け入れるなどし、楽しく暮らせるように努めている。また、新しい社会資源の活用を積極的に行っている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関を設けており、適切な医療やアドバイスを受けられるよう、情報提供も行っている。また、かかりつけ医の決定は本人や家族が、納得できるよう説明し、自由に選択できるようにしている。	本人や家族が希望するかかりつけ医とする場合は、家族の協力を得ての受診の支援をしている。受診時にはケース記録の記録を基に情報を提供している。協力医療機関をかかりつけ医とする場合は、2週間に1回の訪問診療がある。他科受診は家族の協力を得ている。訪問看護ステーションから週1回、法人から週2回看護師が来訪し、利用者の健康チェックや職員の相談に応じている。受診結果は電話で家族に伝えている。職員間では連絡帳に記録し共有している。夜間や緊急時はかかりつけ医や協力医療機関に連絡して指示を仰ぎ、適切な医療を受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の気になる点や気づきなどを訪問看護や看護職員に随時相談しており、急な体調不良が発生した場合などに適切な処置やアドバイスが受けられるように努めている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に足を運び、家族や主治医、医療相談員などと情報交換をし本人の状況把握に努めている。また退院後、適切なケアができるように、職員同士で情報を共有し、受け入れ態勢を整えておくように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合における指針」について、事業所のできる事、できない事を説明し、同意をいただいている。また、控えを家族にわたすようにしている。また、かかりつけ医や協力医療機関にも相談しながら取り組んでいる。	契約時に「重度化した場合における指針」に基づいて事業所のできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族の意向を聞き、主治医や看護師等と話し合い、医療機関や法人施設への移設、看取り等を含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ミーティング時にリスクマネジメントについての研修を取り入れ、ヒヤリハットのあり方を再認識して事故防止につなげられるよう努めている。また、救急隊員による応急手当の実習に加えミーティング時の研修での応急手当を取り入れ、救急対応マニュアルを整備している。	事例が発生した場合は、その場の職員間で状況と対応などについて話し合い、リスクマネジメント事例シートや事故報告書(市の様式)に記録して回覧し、共有している。月1回の全体ミーティング時や法人グループホーム管理者会議で再検討して、再発防止に取り組んでいる他、介護計画に反映することもある。職員は年1回、消防署の協力を得て救急救命法を受けている。欠席者は法人の他事業所で受けている。月1回の内部研修で応急処置(骨折、窒息)、食中毒、感染症、脱水、熱中症を実施しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や水害などの訓練は行っていないが、避難訓練の前に配布する案内の中に天災について触れたものを掲載し、火災だけでなく地震や水害等にも協力が得やすくなるように努めている。	年1回、消防署の協力を得て夜間想定の方災通報、消火避難訓練を利用者と一緒を実施している他、事業所独自に昼間想定の方通報訓練をしている。緊急連絡網に地域の人の加入はなく、地域との協力体制の構築までには至っていない。	・地域との協力体制の構築
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないようにする事を念頭に置き、言葉かけや対応に注意している。また、月に1度のミーティングの中で、対応についての研修も行っている。個人情報の取り扱いには十分に注意を払っている。	職員は内部研修(接遇マナーやプライバシーの保護、個人情報の取り扱いなど)で学び、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人情報の取り扱いや管理に留意し、守秘義務についても理解している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の体調を考慮し、本人の希望を聴くようにし、希望を出し易い環境作りや、自己決定し易い声かけ、対応をするように努めている。また、意思疎通の困難な方の場合、生活歴などから、思いを汲めるように努力している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の申し送り時にグループホーム職員の心得を唱和し、日々自分達が意識していくと共に、個々のペース、心身の状況に応じ、希望に添った支援ができるようにニーズを掴むように努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度、地域的美容院に散髪に来て頂いている。要望がある場合には、家族と連絡を取り合い、できるだけ要望が叶えられるよう努めている。好みの身だしなみやおしゃれが楽しめるよう支援を行っている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食、昼食、夕食3食とも作るようにしている。調理や配膳、片づけもできる範囲で一緒に参加して頂きながら支援している。また四季を感じられる料理献立などを取り入れている。	事業所の畑で穫れた野菜(かぼちゃ、トマトなど)など、旬の食材をつかって、利用者の好みを聞いて献立を立て、三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者の状態に応じてきざみ食など形状の工夫をして支援している。利用者は買い物、材料の下ごしらえ、盛り付け、台拭き、お盆拭き、配膳、下膳、食器洗いなど、できる事を職員と一緒にしている。利用者と職員は一緒に食卓を囲み、同じ物を食べ、会話を楽しみながらゆっくりと食事をしている。季節の行事食(おせち、恵方巻き、ソーメン流し、年越しそばなど)、おやつづくり(ホットケーキ、ゼリー、ぜんざい)、誕生日食、月1回の外食、家族会での花見弁当などの他、家族の協力を得ての外食などで、食事を楽しむことのできる支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分摂取量などを記録し、把握するようにしている。食事摂取量の少ない方に関しては、身体状況に合わせ、工夫をしながらできるだけ摂取することが出来るよう努めている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員と一緒に、個々のできる範囲内で、見守りを行いながら食後の歯磨きやうがい、義歯の洗浄などを行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、定期的な声かけやトイレ誘導をし、排尿、排便が滞らないように主治医や看護師と連携をはかりながら調整し、自立に向けた支援をしている。	排泄チェック表と健康チェック表を活用してパターンを把握し、習慣を活かして、言葉かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常の水分補給をこまめに行い、また食物繊維の多い食材を取り入れ、バランスのとれたメニューを心がけている。適度な運動(ラジオ体操や散歩)を取り入れ、主治医や看護師と連携をはかりながら支援している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に2日おきに行い、本人の希望に応じた時間、入浴方法で楽しく気持ちよく満足して頂けるように心掛けている。また、体調に合わせて清拭などに対応している。入浴予定日外の方は足浴を楽しんでいただいている。	入浴は毎日、11時から12までの間と13時から14時までの間可能で、歌を歌ったり、会話を楽しみながらゆっくりと入浴できるように支援している。体調に応じて清拭、足浴、部分浴、シャワー浴など一人ひとりに合わせた支援をしている。入浴したくない人には無理強いをせず、時間の変更や職員の交代、言葉かけの工夫をして個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の場合や夜の就寝までの時間など、その人のペースでゆっくりのんびりと過ごして頂けるように努めている。眠れない時にはできるだけ寄り添うようにしたり、飲み物を飲んだりする安心して眠れるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬状書を事務所の見やすい場所に置き、再確認しやすいように工夫している。内容に変更があった場合は連絡ノートに記入し、情報を共有している。また、服薬ミスがあった場合の対応ルートを明確にしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式や事前資料、家族や本人との会話の中から本人の生活歴などを把握し、家事などに積極的に参加して頂きながら喜びを感じられる支援をしていくように努めている。また、気分転換に散歩なども行っている。	プランターや畑の野菜の収穫、食材の下ごしらえ、盛り付け、台拭き、お盆拭き、配膳、下膳、食器洗い、モップかけ、洗濯物干し、洗濯物たたみ、新聞紙のゴミ袋づくり、歌を歌う、新聞を読む、読書、テレビ視聴(のど自慢、相撲など)、ぬり絵、貼り絵、紙花づくり、輪飾りづくり、パズル、カルタ、トランプ、カラオケ、ラジオ体操、口腔体操、誕生日会、家族会(おやつづくり、年末大掃除、花見など)、活躍できる場面づくりや楽しみごと、気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば、家族と相談しながら連携を図ったり、出来る限り希望が叶うように努めている。天候が良い日には、散歩に行くようにしている。また、定期的に花見や紅葉見学などの外出や、外食なども取り入れている。	日々の散歩、外気浴、月1回程度の外食、四季の花見(桜、バラ、紅葉、藤、コスモス)、長府庭園、演芸センター、リフレッシュパーク、住吉神社、地域のふるさとまつり、ショッピングモールでのウィンドウショッピング、海響館などに出かけている他、家族の協力を得ての外出、外食、一時帰宅、カラオケ教室、結婚式や法事への出席、墓参りなど、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の了解を得て、お金を預かるようにし、希望があれば使えるように支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	できる範囲で職員と一緒に家族へ向けて年賀状を書くようにしている。また、電話の要望があれば家族と相談のうえ、応じられるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた絵画や装飾物などで、季節感を持って頂けるように努めている。また、音楽を流したり、個々の写真やパネルなどを作成し、掲示するなどアットホームで過ごしやすい雰囲気作りに努めている。	リビングの壁面には利用者のちぎり絵の作品や手づくりの日めくり、行事の写真、事業所だよりを掲示してある。台所には自由に出入りができ、下ごしらえや食器洗いなどがしやすい工夫がしてある他、調理の音や匂いがして生活感を感じることができる。窓際にはソファや椅子を配置し、利用者が思い思いにくつろげる居場所となっている他、観葉植物や花鉢、季節の飾り物を飾り、季節を感じることができる。温度、湿度、換気などに配慮をして、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士と一緒に過ごしやすいよう、ソファなどの位置を工夫している。また、バルコニーにテラスや花壇を設けたり、室内のみでなく思い思いに過ごせるように工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら、なるべく本人の馴染みの物を置いて頂くようにし、居心地良く過ごして頂きやすくなるように努めている。また状況に合わせて居室内での安全確保にも努めている。	テレビ、タンス、衣裳掛け、衣裳ケース、カラーボックス、体重計、椅子、料理の本、ゴミ箱、ラジカセ、時計、雑誌など使い慣れたものや好みのものを持ち込んでいる他、家族の写真、折り紙作品、カレンダーなどを飾って本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室、トイレなどに手すりを設置し、安全に過ごして頂けるように努めている。また、トイレや浴室のドアには、わかりやすいように目印を付けるなど工夫している。特に滑りやすい場所には転倒防止の工夫を施している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームあやらぎ

作成日：平成 30 年 5 月 30 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1		運営推進会議での議事録では意見交換や地域との関わりについての話し合いなど詳細に記録できていない。	活性化するためのレジュメづくりと議事録への落とし込みの工夫。	毎回、テーマを決め話し合いや意見交換内容を議事録に残す。	12ヶ月
2		応急手当や初期対応の定期的な訓練に職員全員での取り組み不足がある。職員全員の実践力を身につけるまでに至っていない。	職員全員が必ず参加できるように開催方法の変更や開催回数の増加を行ないたい。	法人グループ共同で開催日を共有し積極的参加を促す。参加表を作成して各職員の参加状況を管理する。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。